

選手から指導者への転換期に関する一考察

光田 繁 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 植田 実

キーワード：スポーツ選手 現役引退 セカンドキャリア

I 緒言

二瓶 (2007) は「全てのスポーツ選手は、必ず引退を迎える。さらに、引退は突然性をはらむ事象であり、様々な理由からいつ何時訪れるかわからない。」と述べている。本学の教員もさまざまな理由から引退を迎え、セカンドキャリアとして指導者の道を選択した。

現在、著者自身も引退を迎え、指導者の道を志している。これまでとは異なった形で専門種目に関わっていくことには大きな希望もあり、一方では不安も抱えている。

そこで本研究は、本学のコーチングスタッフに指導者となった経緯をインタビュー調査し、指導者を志したきっかけ等の共通点を検討することで、今後指導者を志す者にとって有益な知見を得ることに加え、著者自身のセカンドキャリアに役立たし、実際の指導現場において優れたテニスプレーヤーを輩出することが本研究の目的である。

*本研究では、現役引退を「競技の第一線から退くこと」と定義する。

II 研究方法

本学のコーチングスタッフ 10 名を対象に「現役時代」「引退について」「引退後」の 3 つの項目について、30 分程度のインタビュー調査を実施し、その内容を分析した。

III 結果および考察

分析の結果、「恩師の存在」「突然の引退」「強い気持ち・未練」の 3 つのキーワードが見出さ

れた。「恩師の存在」については、高校・大学時代の指導者の存在は、選手の将来に大きく影響を与えることが明らかになった。

また、「突然の引退」については、突然の引退に備え、現役中からあらかじめセカンドキャリアについて検討しておくことが重要であることが示唆された。

さらに、「強い気持ち・未練」については、転換期に競技に対する強い未練・思いがあるのであれば、セカンドキャリアとして指導者の道を選択しても成功する可能性が高いのではないかと推察された。

IV まとめ

本研究の結果、選手の引退からセカンドキャリア獲得に対し、「恩師の存在」「突然の引退」「強い気持ち・未練」の 3 つのキーワードが大きく関わっていることが明らかになった。

また、転換期に競技に対する「強い気持ち・未練」があることで、指導者としても成功する可能性が高いことが推察された。

今後は、これらの知見を著者の実際のコーチング現場において活用し、優れたテニスプレーヤーを育成していきたいと考える。

引用・参考文献

- 1)二瓶雄樹 (2007)：プロ野球二軍選手の引退とその適応性 日本体育学会大会予稿集 155
- 2)吉田 章 (2006)：トップアスリートのセカンドキャリア構築に関する検討 (第 1 報) 筑波大学体育学系紀要 29, 87-95,